

第4学年国語科学習指導案

日時 平成16年7月7日(水)5校時
児童 男子7名 女子9名 計16名
授業者 望月 百合

- 1 単元名 本の世界を広げよう(光村図書4年上)
- 2 教材名 「白いぼうし」「本のさがしかた」「ポスターをかいて、作品をしようかいしよう」

3 単元について

(1) 単元について

本単元は、3つの段階から構成されている。第一次・第二次では、教材「白いぼうし」を、情景を想像したり表現の効果や展開のおもしろさを考えたりしながら、全員で読み進める。第三次では、図書館での本の選び方を学び、実際に本を探して各自が本を読み進める。第四次では、各自が読んできた本の中からお勧めの作品を探し、ポスターにして交流を図る。3つの段階を通して、特にシリーズ作品のおもしろさを味わい、様々な作品に触れることがねらいとされている。また、3学年及び4学年の読書の目標である「読書の幅を広げる」の手立てとなる活動は、主に3つある。第5時「平行読書をしてきた作品について発表し合い、読書歴を振り返る」、第7時・第8時「他の作者のシリーズ作品に触れ、読書に親しむ」、第13～16時「互いのポスターのよさを認め合いながら交流し、紹介された作品を読む」の3つである。それぞれの活動では、児童相互の交流が形を変えながら繰り返されている。この活動が自らの読書経験を振り返り読書の幅を広げることにつながるのである。

(2) 児童について

児童はこれまでに、3年下「ちいちゃんのかげおくり」で場面の様子を想像しながら読み、感じたことを伝え合う学習を経験している。また、4年上「三つのお願い」では、場面の移り変わりを想像しながら読むこと、「ツバメがすむ町」では、段落のつながりを考えて読むことを学習してきている。想像して読んだり音読したりすることに意欲的で物語の好きな児童が多い実態である。

読書体験についても、児童はこれまでも読書の楽しさを味わう経験を積んできており、朝読書や多読カードの取り組みにも意欲的に参加している。また、事前に行った「読書に関する調査」では、以下の通りの回答がなされている。

- ・「あなたは本が好きですか」・・・16名中15名が「はい」と回答、
- ・「あなたは本を選ぶときどのように選びますか」(多回答)
・・・16名中8名が「好きなシリーズの中から選ぶ」と回答
- ・「お勧めの本を教えてください」・・・16名中12名がシリーズ作品の題名を回答

以上の結果からも、ほとんどの児童は本が好きであり、自分の気に入った読書分野を持ち、その分野を中心に自分で本を読み進めていることが分かる。シリーズ作品への関心も高く、シリーズ作品が次の本を手取るきっかけとなっていることも確かである。

しかし、それだけに同じ傾向の本を読むことが多く、新しい本に出会うきっかけがないままにきてしまっている児童や、思いこみで苦手な読書分野を作ってしまった児童も多い。読書の幅を広げるためには、新しい本と出会う手立てが必要である。

(3) 指導にあたって

第一次・第二次では、松井さんという主人公が繰り広げる物語であることや話のおもしろさを意識させながら、「白いぼうし」を読み味わわせたい。第三次は、「新しい本と出会う機会づくり」を重点とし、他の作者のシリーズ作品をきっかけに児童が新たな読書の幅を広げていけることをねらいたい。その際、読む環境を整えることにも配慮したい。第四次では、自分の思いを紹介することだけでなく、それによって友だちの読書の幅を広げることでもできるということを児童自身にも理解させ、相手意識を持ちながら、お互いの交流が図れるようにしたい。

指導の際、シリーズ作品を取り上げることは、教材との関連・児童の実態の両面からみて有効であると思われる。児童の実態にあったシリーズ作品、特にシリーズの1作目を多く用意し、シリーズ作品が児童の読書の幅を広げる糸口となるようにしたい。

4 単元の見目

情景を想像しながら読み、シリーズのほかの作品にも興味をもつ。
図書館を利用して、シリーズになっている作品を中心に、読みたい本を探して読む。
友達が読みたいくなるように、作品紹介のポスターを工夫して作る。

5 単元の指導計画（学習指導計画 16 時間）

	学 習 活 動	関心・意欲・態度	話すこと 聞くこと	書く こと	読む こと	言語 事項
第一 次	シリーズ作品に興味を持つ。「白いぼうし」を読んで初発の感想を交流し、学習計画を立てる。					
第二 次	第 1、2 場面の松井さんの言動に着目して、母の優しさを受け止め、ぼうしの持ち主の気持ちを考える松井さんの優しい人柄について読み取る。					
	第 3、4 場面の女の子の会話や野原のちょうの声に着目して、場面の様子を想像しながら、松井さんを包み込んでいる不思議な世界を読み取る。					
	色やにおいを表す言葉をもとに表現の効果や、場面の移り変わりについて考え、話の展開のおもしろさを話し合う。					
	平行読書をしてきた作品について発表し合う。自分の読書歴を振り返る。					
第三 次	本の探し方について学習する。					
	他の作者のシリーズ作品にふれ、読書に親しむ。 《本時 1 / 2》					
第四 次	自分が読んだ本をポスターで全校に知らせるといふ目的をもち、ポスターのよさ、描き方のポイント、工夫したい点について話し合う。					
	紹介する作品を決め、ポスターの構想を練る。 （および課外）ポスターを作成する。					
	ポスターを持ち寄り、互いのポスターのよさを認め合いながら交流する。					
	（および課外）友達の紹介した作品の中から、読みたいものを選び、読書に親しむ。					

は主目標。

6 本時の指導

(1) 目標

「車のいろは空のいろ」シリーズや他の作者のシリーズ作品に興味を持って読む。

(2) 本時の評価

・評価規準

新しく出会った本に興味を持ち、読もうとしている。

具体的評価規準	A の状況の具体的姿	C の状況への手立て
新しく出会ったシリーズ作品に興味を持ち、読むことができる。 感想カードに主人公・あらすじ・心に残った部分を書くことができる。	興味を持って読み、読んだ本のおもしろさに気づくことができる。 ・心に残った内容について、相手に伝えることを意識した文章でカードに記すことができる。 ・新しい本と出会うこと自体やシリーズ作品自体の楽しさを感じることができる。	・「ブックくじ」を用意し、楽しみながら新しい本と出会える機会を与える。 ・本を選び直す機会を与える。

(3)展開

過程	学習活動	教師の働きかけと ・予想される児童の反応	支援上の留意点 評価
導 入 5 分	1 前時までの読書体験を振り返る。 2 他の作者のシリーズ本があることを知る。 3 課題を把握する。	「車の色は空の色」シリーズにはどんな読み物がありましたか。 ・白いぼうし ・春のお客さん 図書室には、あまんきみこさんのシリーズ本だけではなく、他の作者のシリーズ本があります。	ワークシートで自分の読書体験を想起させる。 掲示を活用する。
シリーズの本に親しみ、友だちに伝えよう			
展 開 30 分	4 他の作者のシリーズ本に興味を持たせる。 5 本の選び方を確認する。 6 本を選び、各自読み進める。	本の紹介をします。 他の作者のシリーズ本にはこのような作品があります。 (「あらしのよるに」シリーズの概要をブックトークで紹介する。) 図書室の書棚から、自分でシリーズ本を見つけて読みましょう。 「ブックくじ」を引いてもいいですよ。 ・自分で本を選び読み進める児童。 ・本を選べるが、読み進めることが難しい児童。 ・本選びに迷う児童。	できるだけ、これまでに読んでこなかった本に興味を向かせる。 シリーズの流れを感じられるパネルシアターを用意する。 シリーズ作品に親しむ目的で本を選ぶことをおさえる。 シリーズ作品を持つ作者を紹介する。 「ブックくじ」を引いたり、本を選び直してもよいことを助言しながら進める。
ま と め 10 分	7 感想カードを書く。 8 本時の学習を振り返る。 9 次時の予告を聞く。	心に残った部分・気に入った部分がありましたか。 ・カードに記入 友だちの読んだ本はどのような本だったのか、聞いてみましょう。 ・「あらしのよるに」はオオカミとヤギが嵐の夜に出会う物語だった。二匹が友情を選ぶか、えさを選ぶか迷っているところが心に残った。 ・ひとつの作品を読み終わったけれど、シリーズの続きがあるので、早く読んでみたい。 次の時間も読み進めていきましょう。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 新しく出会ったシリーズ本に興味を持ち、読むことができたか。感想カードに主人公・あらすじ・心に残った部分を書くことができたか。 (観察・カードへの記入) </div> ワークシートには、本時の活動の自己評価欄も設ける。